

課題の採択・評価の流れ

事業名	分野	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34
イノベーション創出 強化研究推進事業 (旧：農林水産業・ 食品産業科学技術 研究推進事業)	基礎研究ステージ			11課題	●	■				
					7課題	●	■			
						11課題	●	■		
	応用研究ステージ			6課題	●	■				
					4課題	●	■			
						12課題	●	■		
	開発研究ステージ	22課題		●		■				
			1課題		●	■				
			6課題		●		■			
				14課題	●	■				
				1課題		●	■			
				4課題		●		■		
					15課題	●	■			
					3課題		●		■	
						7課題	●	■		
						1課題		●	■	
						6課題		●		■
「知」の集積と活用 の場による研究開発 モデル事業	—			3課題	●		■			
				7課題		●		■		
					1課題		■			
					6課題	●		■		
異分野融合発展研究	CNF				3課題	●				■
	日本食				1課題		■			

- 中間評価：期中（4年間の研究課題では2年目、5年間の研究課題では3年目など）に実施
- 終了時評価：研究終了時に終了時評価を実施

中間評価により研究計画を縮小した課題例

事業名	課題名
イノベーション創出強化 研究推進事業	養殖事業や流通業者でもできる簡便な魚類寄生粘液胞子虫病の診断法および防除法の開発（H29年度～H31年度）
研究開発モデル事業	糖鎖ナノバイオテクノロジーを基盤とした家畜家禽ウイルスの迅速高感度検査法の確立・普及とワクチン製造技術開発（H28年度～H31年度）
異分野融合発展研究	ナノナノ複合体の活用による次世代施設園芸の生産性向上（H29年度～H33年度）
	廃菌床由来キチン/セルロースナノファイバーを活用した高機能性農業資材の開発（H29年度～H33年度）
	高機能性セルロースナノファイバー(CNF)・カーボンナノチューブ(CNT)複合構造体の開発および低温型遠赤外線乾燥システム等への応用（H29年度～H33年度）

競争的資金事業の２年後・５年後フォローアップ調査について
(平成３０年度実施)

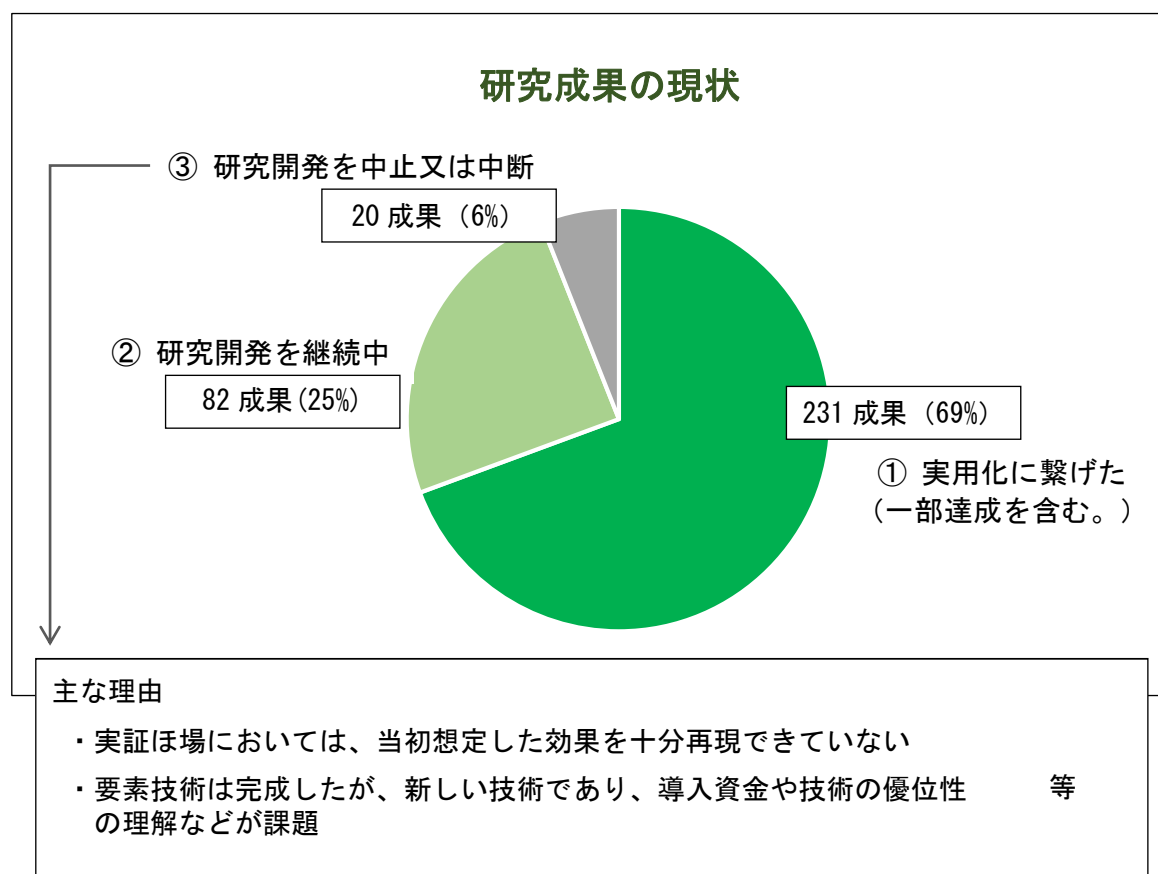
※当該フォローアップ調査は、「知」の集積と活用場の取組開始（H28.4）以前の競争的資金事業における研究成果の調査結果である。

１．調査の概要

調査対象事業	農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業 (技術開発ステージ)	
研究終了年度	平成 25 年度	平成 28 年度
調査対象課題数	74	23
アンケート回答課題数	73	22
面接調査課題数	32	7
ステークホルダー調査課題数	5	2

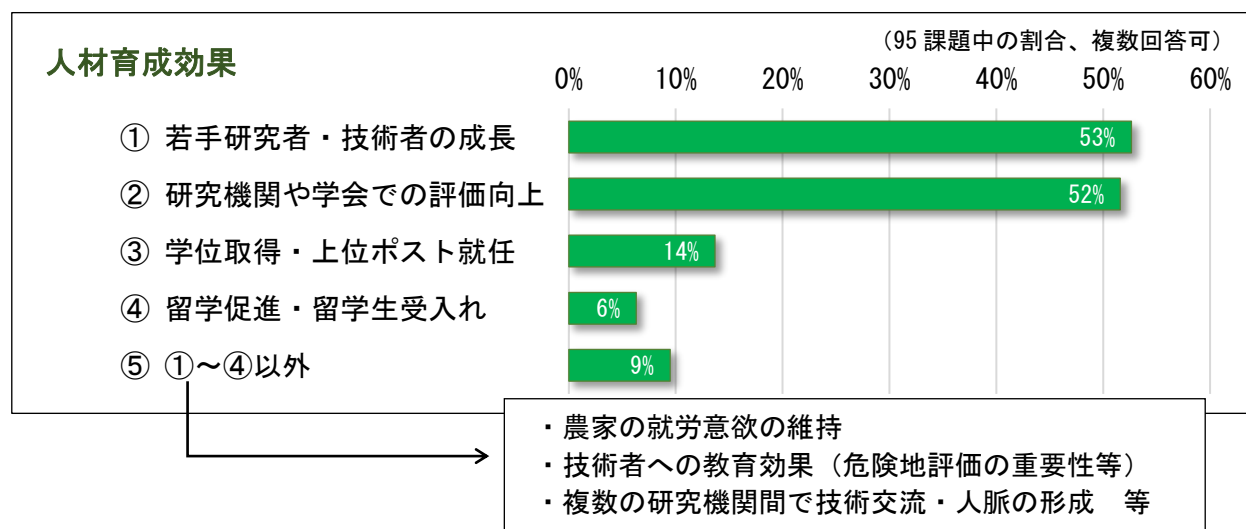
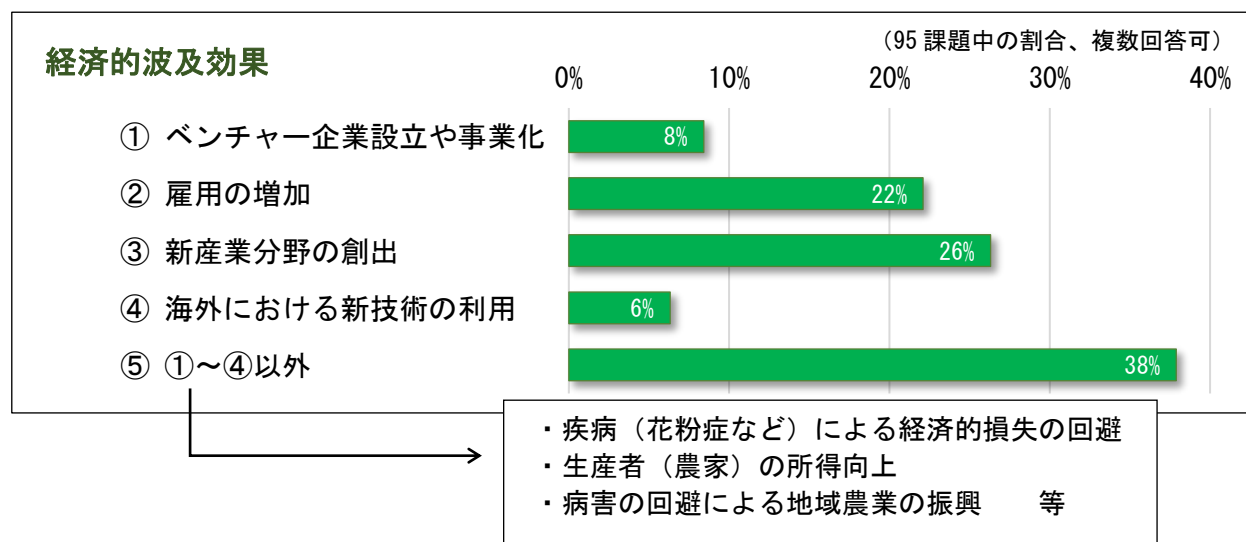
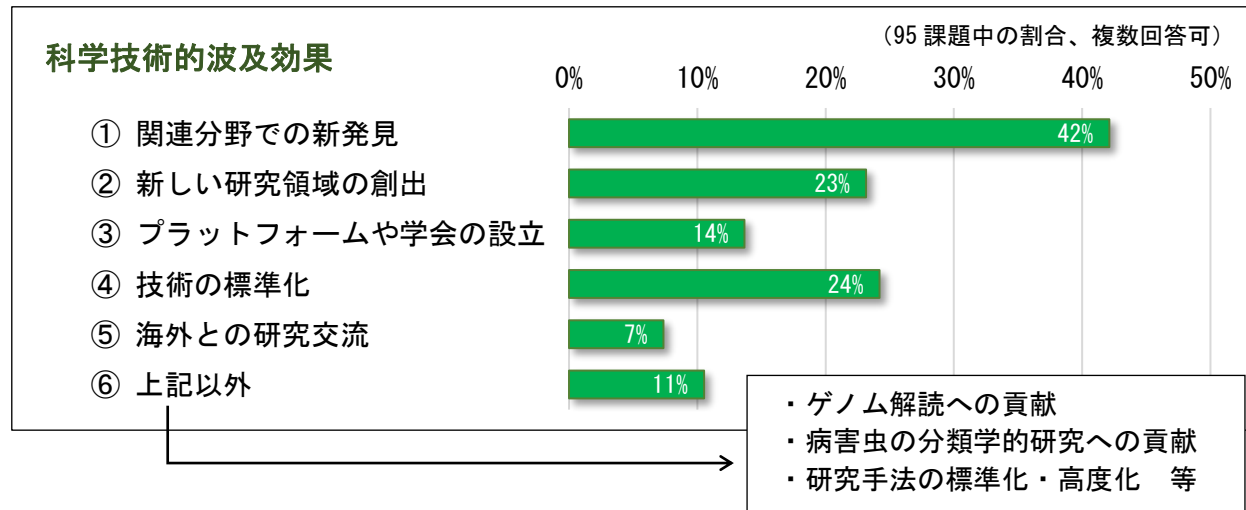
２．研究成果の現状

アンケート回答のあった95課題における研究終了時の研究成果333課題のうち「①農林水産・食品分野での実用化につなげた(一部もしくは全て達成)」と回答された成果は231課題(69%)であった。



3. 研究成果の波及効果

研究成果が、関連する研究・技術分野や産業分野に対して、①科学技術、②経済、③人材育成、の観点からどのような波及効果を及ぼしたか、アンケート調査を行った。



4. 研究成果の普及優良事例

【研究課題名】

果樹の樹体ジョイント仕立てを核とした省力、低コスト栽培システムの開発

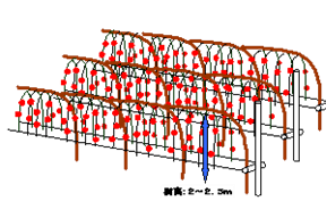
研究代表機関：神奈川県農業技術センター（研究期間：平成21年度～25年度）

1. 研究目的

果樹の栽培管理を省力化・簡易化するため、栽培の核となる仕立て法を単純化する。

2. 研究の主要な成果

「ジョイント仕立て」（樹と樹をつなげ、樹形を形成する技術）による、複数樹種（ナシ、カキ、ウメ、スモモ）の安定生産技術を確認



側枝下垂型
(リンゴ、キウイフルーツ等)



側枝上方誘引型
(リンゴ、カキ、ウメ等)



側枝水平誘引型
(リンゴ、ブドウ、ナシ等)

3. 開発した技術・成果の実用化・普及の実績及び今後の展開

普及実績	今後の展開
<u>ジョイント仕立て技術の普及状況</u> ・ニホンナシ：100ha（特許許諾33団体） ・カキ：5ha（導入農家約50戸） ・ウメ：3ha（特許許諾22団体） ・スモモ：2ha（導入農家約25戸） <u>ジョイント仕立て用ナシ育苗技術</u> ・苗生産本数 6000本/年	<u>ジョイント仕立て技術の普及</u> ・ニホンナシ → 2020年150ha, 2025年 250ha目標 <u>V字形ジョイント技術を開発</u> ・栽培管理の自動化・ロボット収穫可能 ・リンゴ、ナシ、カキ、オウトウなど 年間労働時間を大幅に削減

4. 研究終了後の新たな研究成果

①



②



① 自動走行車を用いたナシジョイント仕立ての収穫作業時間 20%削減

② 自動走行車を用いたカキジョイント仕立ての自動防除機開発

【研究課題名】

家畜伝染病発生時におけるまん延防止のための殺処分家畜等輸送技術の確立

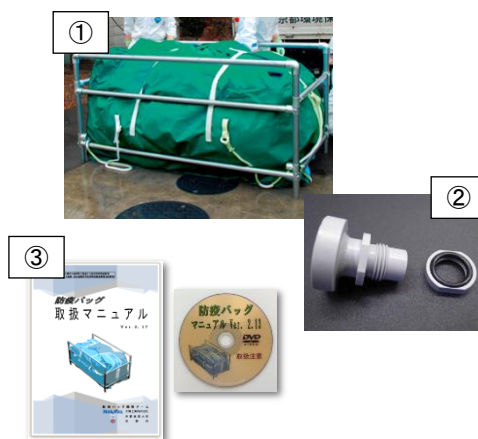
研究代表機関：太陽工業株式会社（研究期間：平成24年度～25年度）

1. 研究目的

家畜伝染病予防法における患畜・疑似患畜の死体の処分において、農場から処理施設まで安全に輸送できる輸送システムと備蓄可能な輸送資材を開発する。

2. 研究の主要な成果

- ① ウイルス等病原体の散逸を防止する完全密封型容器
（密閉容器を収容する金属枠も開発）
- ② 殺処分家畜の一時的な保管時に発生するガスを抜き
ウイルスを漏らさないガス抜き弁
- ③ 収容・輸送の作業手順を定めたマニュアル

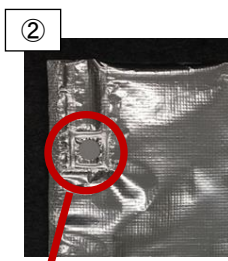


3. 開発した技術・成果の実用化・普及の実績及び今後の展開

普及実績	今後の展開
販売実績 - 防疫バッグ386袋、アルミ内袋388枚 - 保護材378セット、ガス抜き弁452個 - 金属フレーム3個 （国2件、大学1件、都府県10件、団体12件） ※ 販売額：29,127,900円	防疫演習を通じた普及促進 2020年10件、3～5年後に20件 - 防疫バック備蓄として、全国で2020年1000袋、3～5年後10000袋

4. 研究終了後の新たな研究成果

①	項目	汎用型小型アルミ内袋及び保護内袋
	製品写真	
	製品寸法	内袋(不織布): W830 × H800(厚み2mm) アルミ内袋: W700 × H800(フィルター付き)
	材質	内袋(不織布): ポリエステル アルミ内袋: PE+PE織布+アルミ箔+PET



ガス抜き
フィルター

- ① 防疫バッグに小型家畜を収容できる
小型保護袋の仕様を決定
（外袋はそのまま転用可能）
- ② 小型アルミ内袋に溶着できるガス抜き
フィルター膜の開発
（実験室レベルでの有効性を確認）

【研究課題名】

“いつでも天敵” ～天敵増殖資材による施設園芸の総合的害虫防除体系の確立・実証～

研究代表機関：国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 中央農研究センター（研究期間：平成26年度～28年度）

1. 研究目的

薬剤防除が困難なハダニ等の微小害虫における施設園芸作物の防除体系確立のため、従来の天敵製剤よりも簡単・確実に放飼ができる天敵増殖資材を開発する。

2. 研究の主要な成果

2種類の天敵製剤を製品化

スワルバンカー
(セット販売製品愛称)



スワルスキーカブリダニ剤
(アザミウマ・コナジラミ用)

ミヤコバンカー
(セット販売製品愛称)



ミヤコカブリダニ剤
(ハダニ用)

施設野菜での防除マニュアル



施設栽培のキュウリ・
ナス・イチゴ・
サヤインゲン・
ダリアに対応

3. 開発した技術・成果の実用化・普及の実績及び今後の展開

普及実績	今後の展開
普及状況 ・イチゴ・キュウリを中心に2商品 累計390haの施設で導入 ・マニュアルの冊子版配布（1800部） およびWeb掲載	普及促進 ・事業終了5年後までに1000ha 技術改良 ・AI等を活用したバンカーシート利用の 高度化技術開発 対応作物拡大 ・露地栽培や花き、マイナー作物への対応

4. 研究終了後の新たな研究成果

①



① 利用マニュアルの改訂（第二版）

- ・現場の声に合わせた情報更新（イチゴ）、花き（ダリア）利用技術追加
- ・第一版からの累計で冊子1800部以上を配布し、Webにも掲載

② チラシ等による周知活動

- ・イチゴのハダニ防除技術（ミヤコカブリダニ剤）
- ・キュウリでのアザミウマ・コナジラミ防除技術（スワルスキーカブリダニ剤）

【出典】「基礎的研究業務追跡調査結果（平成30年度）」調査結果より農林水産省作成

研究成果事例

産学官が連携した研究開発により、
新たな商品化に結び付いた成果事例をご紹介します。

「信州ひすいそば」を支える新ブランド品種「桔梗Ⅱ号」



長野県が推進している長野県産そばブランド「信州ひすいそば」。
このブランドの品種である「長野 S8 号」は、草丈が高いため、
倒れやすいという課題がありました。

このため、「長野 S8 号」よりも草丈が低く、翡翠のような緑色
の色調がやや勝る新品種「桔梗Ⅱ号」を育成しました。倒れに
くいたため、コンバインで収穫しやすい特徴もあり、将来の「信州ひ
すいそば」ブランドを支える新品種と期待されています。

機能性を有し機械収穫に適する高品質新品種の育成と「信州ひすいそば」ブランドの強化

農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業（平成 26～29 年）
イノベーション創出強化研究推進事業（平成 30 年）

信州大学 学術研究院農学系

E-mail: matuken@shinshu-u.ac.jp

長野県野菜花き試験場 畑作部 TEL: 0263-52-1148

● 問い合わせ先

デュラム小麦品種「セトデュール」を使った純国産パスタ販売開始



柔軟で弾力のあるタンパク質が多く含まれるデュラム小麦品種
は、パスタやピザ用に向いていますが、日本ではほとんど栽培さ
れてきませんでした。そこで、今回、日本初のデュラム小麦の新
品種「セトデュール」を育成し、安定的に生産するための栽培マニ
ュアルも整備しました。「セトデュール」を100%使用したスパゲティ
は、大手食品メーカーにより商品化され、2018 年から製造・販売
が開始されています。

国産のデュラム小麦品種の栽培と純国産パスタ製品の開発

農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業（平成 27～29 年）

日本製粉株式会社 基礎技術研究所
TEL: 046-222-6988

● 問い合わせ先

小型マグロ類「スマ」の完全養殖システムを実用化



商品価値の高い小型マグロ類「スマ」の「完全養殖」に成功し、商品化。

小型マグロ類「スマ」。マグロの近縁種で漁獲量が少なく、幻の高級魚として注目されてきましたが、養殖や飼育の実績がほとんどありませんでした。

今回、スマの「完全養殖」に成功。2017年から「愛媛の貴重な海の恵み」という意味を込めて、「伊予の媛貴海（ヒメタカミ）」というブランド名で出荷が始まっています。

🗨️ 「南予地域発」新規マグロ類「スマ」の早期種苗完全養殖システムの構築
農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業（平成26～28年）

● 問い合わせ先

愛媛大学 南予水産研究センター
TEL: 0895-73-7112

お茶の農薬散布量を劇的に削減



鹿児島県農業開発総合センター茶業部と松元機工株式会社は、従来の農薬散布量の約1/5～1/2で、これまでと同等の病害虫防除効果を発揮する農薬散布機4機種を開発しました。

少量農薬散布では、天敵類（クモ類や寄生蜂類、テントウムシ類等）に対する保護効果も認められました。

鹿児島県を中心に、この少量農薬散布機の利用が広がっています。

🗨️ 劇的な茶少量農薬散布技術と天敵類が融合した新たなIPM（総合的病害虫管理）の創出

農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業（平成27～29年）

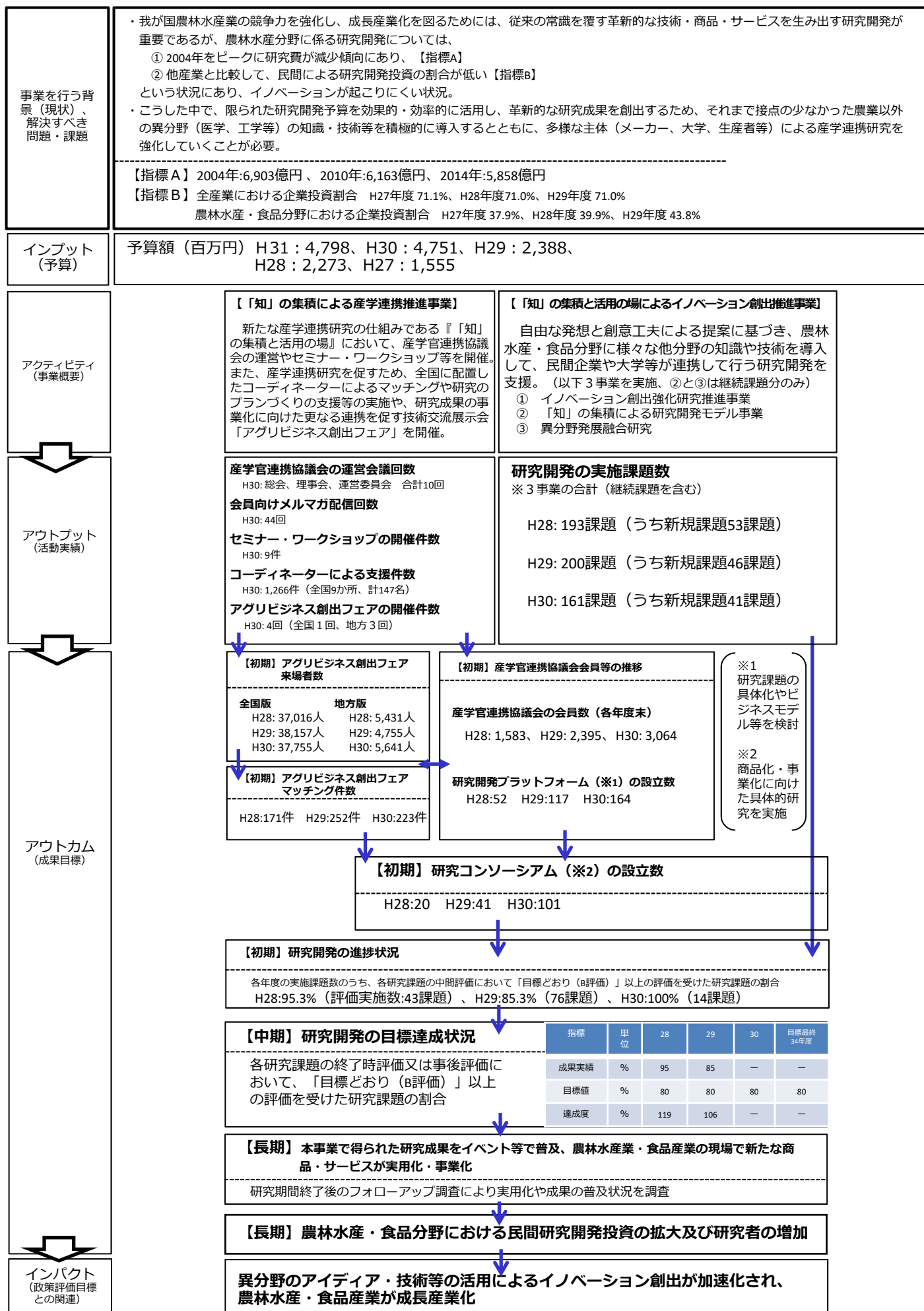
鹿児島県農業開発総合センター 茶業部

E-mail: chashisai@pref.kagoshima.lg.jp

TEL: 0993-83-2811

● 問い合わせ先

「知」の集積と活用によるイノベーション創出推進事業 ロジックモデル



主な論点

「知」の集積と活用によるイノベーション創出推進事業

- 本事業に対するニーズの把握や対象課題の選定は効果的・効率的なものとなっているのか。
- 事業目的が「農林水産業・食品産業の競争力強化」であるならば、最終成果による市場規模の拡大や農業者の所得向上等についてもアウトカムを設定すべきではないか。
- 事業終了後にしか成果実績が把握されないアウトカムがみられるが、途中年度においても実績や進捗状況を的確に把握し、明らかにすべきではないか。
- 一者応札となっているものがあるが、一者応札の改善の手段は妥当か。